

2014年のできごと

1月2日 房総半島沖でプレート境界面のゆっくり滑り（スロースリップ）現象を検出

1月2日頃から、房総半島沖のフィリピン海プレートと陸側のプレートの境界面で「ゆっくり滑り（スロースリップ）現象」によるものと推定される、通常とは異なる地殻変動（非定常地殻変動）が検出された。

1月9日～10日 持続可能な開発目標オープンワーキンググループ第7回会合に係るサイドイベントに出席

アメリカ合衆国のニューヨークで開催された持続可能な開発目標オープンワーキンググループ第7回会合に係るサイドイベントに、国土地理院が国連地球規模の地理空間情報管理（UN-GGIM）の下に設置された「持続可能な開発のための地球地図（GM4SD）」作業部会の座長を務めていることから、村上企画部長が講演者の一人として参加した。

1月10日 中国・四国・九州・沖縄地方の電子地形図 25000等の販売を再開

中国・四国・九州・沖縄地方の電子地形図 25000及び数値地図（国土基本情報）の販売を再開した。

1月11日～2月23日 企画展「第17回全国児童生徒地図優秀作品展」を開催

地図と測量の科学館ほか2会場において、企画展「第17回全国児童生徒地図優秀作品展」を開催した。本企画展は、全国各地で開催されている児童生徒の地図に関する作品展から選ばれた優秀作品を展示するもので、153作品を展示した。また、国土交通大臣賞、文部科学大臣賞の表彰式が1月14日に国土交通本省で行われた。

1月14日 昭和11年（1936年）以降に撮影した空中写真を「地理院地図」から公開

昭和11年以降に旧日本軍、米軍、国土地理院が撮影した空中写真を「地理院地図」から公開した。

1月14日～17日 地球観測に関する政府間会合（GEO）第10回プレナリー会合・閣僚サミット等に出席

スイス連邦のジュネーブで行われた GEO 執行委員会及びサイドイベント・第10回 GEO プレナリー会合・GEO 閣僚サミット及びサイドイベント等に、鶴生川環境地理課課長補佐が出席した。ジャパンプースにおいて地球地図に関する国土地理院の活動を

ブースで展示するとともに、ショートレクチャーを行った。

1月15日 第259回地震調査委員会に出席

文部科学省において第259回地震調査委員会が開催され、齊藤地理地殻活動研究センター長が出席した。本会議では、「2013年12月の地震活動」について、関係行政機関及び大学等による調査観測結果やこれまでの研究成果の整理・分析が行われ、地震活動の現状について総合的な評価が行われた。

1月20日 火山土地条件図「岩手山」を公開

東北地方を代表する活火山である岩手山を対象に岩手県盛岡市、八幡平市、滝沢市及び雫石町が含まれる範囲約640km²を調査し、火山土地条件図「岩手山」を公開した。

1月27日～29日 米国航法学会 2014 国際技術会議に出席

アメリカ合衆国のサンディエゴで行われた米国航法学会 2014 国際技術会議に矢萩地殻監視課課長補佐が出席した。衛星測位システム（GNSS）に関する最新の解析技術や測位補強サービス、応用技術等について各国から多数の研究者・技術者・業界関係者等が参加し活発な議論がなされた。

1月30日 第11回測量技術講演会を開催

北海道地方測量部は、札幌第1合同庁舎講堂（札幌市）において、「地理空間情報の一層の利活用の推進と普及に向けて」を主題とする第11回北海道測量技術講演会を（公社）日本測量協会北海道支部と共催で開催した。

1月31日 場所情報コード閲覧システムの試験公開を開始

様々な情報を関連付けることで、防災、観光、物流、自律移動支援など多様な分野への応用が期待されるサービスとして、通信分野で使われる ucode に位置による分類を付け加えて、固定された特定の地点を識別し、その地点に関する情報を呼び出すことのできる、場所情報コード閲覧システムの試験公開を開始した。

1月31日 「平成25年全国都道府県市区町村別面積調」を公表

平成25年10月1日現在の日本国土の面積をとりまとめた「平成25年全国都道府県市区町村別面積調」

を公表した。国土の面積は、埋立等により1年間で1.82km²増加し、377,961.73km²となった。

2月10日～28日 「地理情報標準プロファイル (JPGIS)」の一部改正に関する意見募集を実施

ISO規格及びJIS規格の最新版と適合させるためのJPGISの一部改正案について、国民からの意見募集を実施した。

2月12日 第260回地震調査委員会に出席

文部科学省において第260回地震調査委員会が開催され、齊藤地理地殻活動研究センター長が出席した。本会議では、「2014年1月の地震活動」について、関係行政機関及び大学等による調査観測結果やこれまでの研究成果の整理・分析が行われ、地震活動の現状について総合的な評価が行われた。

2月14日 電子国土Web.NEXTの機能改良を実施

開発をすすめている電子国土Web.NEXTにおいて、作成・表示した作図情報の保存共有や、使いやすい地図にするための表現の改良を実施した。

2月17日 第202回地震予知連絡会を開催

関東地方測量部において、第202回地震予知連絡会を開催した。本会議では、将来検討ワーキンググループ報告書の承認が行われた。また、全国の地震活動や房総沖スロースリップなどに関する報告が行われた。

2月21日 西之島周辺の空中写真等を公開

2月16日に西之島周辺の空中写真撮影を実施し、空中写真、立体図、数値標高モデルをインターネット上で公開した。

2月25日 第128回火山噴火予知連絡会に出席

気象庁において、第128回火山噴火予知連絡会が開催され、飛田地理地殻活動総括研究官が出席した。参加した各機関から全国の火山活動に関する最新の観測結果の報告、総合的な検討が行われ、特に霧島山、桜島、西之島の火山活動について重点的に検討が行われた。国土地理院からは、地殻変動観測結果や空中写真判読結果等を報告した。

2月28日 北海道地方の電子地形図25000等の販売を再開、日本全国の電子地形図25000等が完成

北海道地方の電子地形図25000及び数値地図(国土基本情報)の販売を再開した。併せて、従来未整備であった北方四島の色丹島及び国後島のデータ提

供を新規に開始した。これにより、日本全国の電子地形図25000及び数値地図(国土基本情報)の入手が可能となった。

3月2日～8日 第8回IVS総会及び第15回解析ワークショップ等に出席

中華人民共和国の上海で行われた第8回IVS総会、第15回解析ワークショップ、第31回IVS評議会、アジア・オセアニアVLBIグループ準備会合に福岡宇宙測地課技術専門員他2名が出席した。IVS総会ではIVSを構成する観測局、相関局、解析センター等の活動、技術開発等が報告された。

3月11日 第261回地震調査委員会に出席

文部科学省において第261回地震調査委員会が開催され、齊藤地理地殻活動研究センター長が出席した。本会議では、「2014年2月の地震活動」について、関係行政機関及び大学等による調査観測結果やこれまでの研究成果の整理・分析が行われ、地震活動の現状について総合的な評価が行われた。

3月11日～6月29日 企画展「戦後復興を支えた地図と測量」を開催

地図と測量の科学館において、企画展「戦後復興を支えた地図と測量」を開催した。本企画展では、戦後の荒廃した日本の復興に大きな寄与を果たした近代測量の技術とその成果について、当時の史料をはじめ、測量機器・地図原版などを中心に紹介した。

3月13日 国土地理院研究評価委員会を開催

関東地方測量部において、平成25年度第2回国土地理院研究評価委員会(委員長:大森博雄東京大学名誉教授)を開催した。委員会では、特別研究4課題の終了時評価が行われたほか、次期研究開発基本計画(案)についての検討も行われた。

3月14日～28日 避難所等地図記号(案)に関する意見募集を実施

緊急避難場所及び避難所を国土地理院の地図などに表示するための地図記号(案)について、最終的な決定の参考とするため、国民からの意見募集を行った。

3月18日 南極の地理空間情報データを公開

南極地域観測事業により蓄積してきた地形図、衛星画像、基準点測量の測量結果等をホームページ上で公開した。

3月19日 「地理院地図3D」サイトを公開

誰でも・簡単に・日本全国どこでもWebブラウザ

で地理院地図を3次元で見ることができ、3Dプリンタで立体模型を作成することもできる「地理院地図3D」サイトを公開した。

3月19日～28日 国土交通省ハザードマップポータルサイトに関する意見募集を実施

国土交通省ハザードマップポータルサイトについて、各種ハザードマップなど防災に役立つ情報を「地理院地図」を活用して画面上で一括して表示できる機能を追加すべく改良作業の参考とするため、国民からの意見募集を行った。

3月20日 場所情報コードの位置情報サービスへの応用に関する共同研究中間報告会を開催

防災、観光、公物管理、自律移動支援等で場所コードの位置情報サービスへの応用についての検証に関する共同研究の中間報告会を開催した。

3月22日 無人航空機(UAV)での西之島周辺の空中写真の自動撮影を実施

UAVによる離島の自動撮影としては初めての試みとなる、西之島の空中写真撮影を実施した。

3月27日～4月15日 国土地理院研究開発基本計画(案)に対する意見募集を実施

国土地理院が行う研究開発の基本的な方針を定める、国土地理院研究開発基本計画について、国民からの意見募集を実施した。

3月28日 地理空間情報ライブラリーサイトをリニューアル

国土地理院の地図・空中写真及び国・地方公共団体が整備した図面等が登録され、検索・閲覧・入手が行える地理空間情報ライブラリーサイトについて、住所・地名から地図・空中写真・3D地図を検索・閲覧でき、またスマートフォン端末からも閲覧できるようリニューアルを実施した。

4月1日 三角点の標高成果を改定

三角点の標高を水準測量に整合した体系とするため、平成26年4月1日に三角点の標高成果を改定した。

また、標高成果改定に併せて、市町村等が実施した公共測量の標高成果改定を支援するための標高補正パラメータや標高成果計算サイトを公開した。

4月1日 三角点の標高成果改定に伴う山岳標高値

の改定を実施

GNSS測量等、新たな測量技術の発展・普及に伴い、全国の三角点の標高成果を改定したことに伴って、日本の主な山岳標高を記載した「日本の山岳標高一覧 -1003山-」の標高値を改定した。

4月1日 地図・空中写真等の刊行物の価格を改定 消費税8%への引き上げに伴い、地図・空中写真等の刊行物の価格を改定した。

4月1日 「測量法施行規則」を一部改正

測量法施行規則が一部改正され、永久標識である電子基準点標識の形状の一部変更、測量士・測量士補の登録申請書等様式の一部変更が行われた。

4月1日 地理情報標準プロファイル(JPGIS)を一部改正

ISO規格及びJIS規格の最新版と適合させるためJPGISの一部改正を行い、JPGIS2014を公開した。

4月1日 2014年度版地殻変動補正パラメータを公開

セミ・ダイナミック補正のための2014年度版地殻変動補正パラメータを公開した。

4月1日 「日本のジオイド2011」(Ver.1)を公開 一部の離島を除いた全国について、新たなジオイド・モデル「日本のジオイド2011」(Ver.1)を構築し、ウェブサイトで公開した。

4月1日 北海道・東北・関東・北陸・中部・近畿・沖縄地方の電子基準点の標高成果を改定 水準成果体系と整合させるため、北海道・東北・関東・北陸・中部・近畿・沖縄地方の一部離島を除く電子基準点及び付属標の標高を改定した。

4月1日 公共測量における作業マニュアルを改正 衛星測位と改定したジオイド・モデルを組み合わせる水準点を設置する測量の方法を示した「GNSS測量による標高の測量マニュアル」と、電子基準点のみを利用して基準点を設置する測量の方法を示した「電子基準点のみを既知点とした基準点測量マニュアル」の、二つの公共測量作業マニュアル(案)を改正した。

4月7日 「だいち2号」に関する国土地理院とJAXAの機関間協定を締結

陸地観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2)データを用いた地理空間情報の整備及び高度利用を連携しての推進、今後の地球観測衛星の開発への寄

与が期待される、「陸域観測技術衛星2号に関する国土地理院と宇宙航空研究開発機構の間の協定」を国土地理院とJAXAは締結した。

4月9日 第262回地震調査委員会に出席

文部科学省において第262回地震調査委員会が開催され、齊藤地理地殻活動研究センター長が出席した。本会議では、「2014年3月の地震活動」について、関係行政機関及び大学等による調査観測結果やこれまでの研究成果の整理・分析が行われ、地震活動の現状について総合的な評価が行われた。

4月9日 新たな「基本測量に関する長期計画」を決定

地理空間情報を活用することによる新しい社会の実現に向けて、すべての測量の基礎となる「基本測量」に関する計画である「基本測量に関する長期計画」を策定し、国土交通大臣告示を行うとともに、インターネット上での公開を行った。

4月10日 「地理院地図3D」サイトのギャラリーに『日本の主な山岳(1003山)』を追加

「地理院地図3D」サイトに『日本の主な山岳(1003山)』を追加し、日本の主な山岳について立体地図を表示できるようにした。

4月10日～30日 防災アプリの機能向上に向けた公募を実施

国土地理院と水管理・国土保全局は内閣府と協力してICTを活用して災害から命を守る社会の実現を目指し、防災地図共用データベース(仮称)を活用して災害時の避難誘導等を図るための防災アプリの公募を行った。

4月22日～6月8日 北海道大学総合博物館の企画展「地図が語る多様な世界」に北海道地方測量部が参加・協力

北海道地方測量部は、4月22日から6月8日にかけて北海道大学総合博物館において行われた企画展「地図が語る多様な世界」に参加・協力した。企画展のほか、市民セミナーや市民地質巡検にも参加・協力した。

4月23日～5月23日 基準点体系分科会(V)中間報告に関する意見を募集

測量や位置情報サービス等における位置情報を必要とする幅広い利用者に役立つスマートでコンパクトな基準点体系に向けた、基準点体系分科会(V)

中間報告について、国民からの意見募集を実施した。

4月23日 避難所等地図記号を決定

緊急避難場所や避難所を「地理院地図」などで表示するための地図記号を、有識者の意見聴取、国民からの意見募集を経て決定した。

4月24日 外国人に分かりやすい地図表現検討会を設置

観光立国実現等に資するため、地名の多言語による表記方法や外国人にも理解しやすい地図記号など、外国人にわかりやすい地図を作成するための標準の検討を行う、「外国人にわかりやすい地図表現検討会」を設置した。

4月25日 新たな「国土地理院研究開発基本計画」を策定

国土地理院における研究開発に関する基本的な方向性を定めた、「国土地理院研究開発基本計画」を策定した。

4月28日～5月2日 第28回国連地名専門家グループ会合に出席

アメリカ合衆国のニューヨークで開催された国連地名専門家グループの第28回会合に中村国土基盤情報調整官他1名が出席した。中村国土基盤情報調整官が「日本の基本図における地名情報の利活用と提供」についての発表を行った。

5月8日 地球地図によるアフガニスタン・イスラム共和国バダフシャン州周辺の地図を公開

豪雨による大規模な地すべりが起き、大きな被害が発生しているアフガニスタン・イスラム共和国北部のバダフシャン州周辺の地球地図を公開した。

5月13日 第263回地震調査委員会に出席

文部科学省において第263回地震調査委員会が開催され、齊藤地理地殻活動研究センター長が出席した。本会議では、「2014年4月の地震活動」について、関係行政機関及び大学等による調査観測結果やこれまでの研究成果の整理・分析が行われ、地震活動の現状について総合的な評価が行われた。

5月16日 「地理院地図」の右クリックメニューに「地理院地図3D」を追加

地理院地図の右クリックメニューに、立体地図が表示できる「地理院地図3Dで開く」を追加した。

5月19日 第203回地震予知連絡会を開催

関東地方測量部において、第203回地震予知連絡会を開催した。本会議では、重点検討課題「日本列島の長期広域変動について」の検討が行われたほか、全国の地震活動などに関する報告が行われた。

5月20日 「500万分1日本とその周辺」を更新
新東名高速道路や首都圏中央連絡自動車道をはじめとする各地の高速道路、新たに開業した九州新幹線や東北新幹線など、電子国土基本図（地図情報）に反映されている重要な施設の最新情報に対応し、「500万分1日本とその周辺」を更新した。

5月21日 「測量の日」記念講演会を実施
「測量の日」四国地区推進協議会は、松山全日空ホテル（松山市）において、『「歴史から学ぶ 日本と台湾の絆」～土木技師八田興一に学ぶ～』との演題で、「測量の日」記念講演会を実施した。

5月24日 陸域観測技術衛星2号「だいち2号」の打ち上げ
種子島宇宙センターから、陸域観測技術衛星2号「だいち2号」（ALOS-2）がH-IIA ロケット24号機によって打ち上げられ、地球を周回する軌道へ投入された。国土地理院は、だいち2号の高頻度で高品質なデータを使用して日本全国の地殻変動を網羅的に計測する予定である。

5月27日 アクションプラン2014を策定
基本測量に関する長期計画の短期の実施計画として、概ね2016年度末に目指す姿や3年間の事業・施策をまとめた、「アクションプラン2014」を策定した。

5月28日 日本水準原点を一般公開
関東地方測量部は、「測量の日」の記念行事として、（公社）日本測量協会の協力を得て、我が国の土地の高さの基準となっている日本水準原点を一般公開した。併せて、パネルの展示やミニ講座を開催して、原点や水準測量等の紹介を行った。

6月1日 「2014『測量の日』特別企画～遊んで学んで地図と測量の世界～」を開催
地図と測量の科学館において、「2014『測量の日』特別企画～遊んで学んで地図と測量の世界～」を開催した。本特別企画では、鳥になって大地を見つめる感覚を味わえるデジタル図化機の体験、大規模地震による地殻の動きをアニメで紹介する地殻変動アニメーションの上映、手で描いた日本列島をコンピュータで採点する日本列島一筆書き、「3Dプリンタ」を用いた地形模型作成の実演と展示、（公財）日本測

量調査技術協会の協力による「UAV（ヘリ型無人飛行体）」の展示、場所情報コードとICタグを活用したクイズラリーなどを行い、1,900名を超える来場者があった。

6月1日 平成26年度「測量の日」における功労者感謝状を贈呈
測量・地図に関する普及・啓発に顕著な功績のあった、NPO法人全国GIS技術研究会、大場亨氏及び田代博氏の1団体及び2個人の方々に対し、国土地理院長から感謝状が贈呈された。

6月2日～6日 ISO/TC211 第38回総会及び部会に参加
ドイツ連邦共和国のベルリンで開催されたISO/TC211 第38回総会及び住所・空間スキーマ・戦略諮問及び場所識別子等の部会に藤村情報普及課長が参加した。総会では、「空間スキーマ」「データ品質-XMLスキーマ実装」等の新規プロジェクトが登録されるなど、11の決議がなされた。部会では、住所概念モデルなどの議題について話し合われた。

6月2日～6日 「測量の日」パネル展を開催
沖縄支所は、沖縄県庁県民ホール（沖縄県那覇市）において、「測量の日」パネル展として、地理院地図3Dの展示、衛星画像などのパネル展示などを行った。

6月3日 「測量の日」中部地区記念行事 記念講演会を実施
中部地方測量部は、レセプションハウス名古屋通信会館（名古屋市）において、「多様化する災害に備えて」をテーマとして、「測量の日」中部地区記念行事 記念講演会を実施した。

6月3日 「測量の日」記念フェア2014を開催
近畿地方測量部は、大阪合同庁舎第4号館（大阪市）において、「測量の日」記念フェア2014として、第18回近畿地方測量技術発表会、パネル展、測量機器・システム展を開催した。

6月3日 第26回「測量の日」地図と測量のミニフェスタ開催
東北地方測量部は、スリーエム仙台市科学館（宮城県仙台市）において、測量の意義と重要性についての理解と関心の一層の向上を目的に、第26回「測量の日」 地図と測量のミニフェスタを開催した。

6月3日 第129回火山噴火予知連絡会に出席
気象庁において、第129回火山噴火予知連絡会が開催され、飛田地理地殻活動総括研究官が出席した。

参加した各機関から全国の火山活動に関する最新の観測結果の報告、総合的な検討が行われ、特に霧島山、桜島、草津白根山、西之島の火山活動について重点的に検討が行われた。国土地理院からは、GNSS連続観測結果や空中写真判読結果を報告した。

6月4日 第22回山形県高等学校サーベイコンテストを開催

東北地方測量部、山形県、山形県内の測量関連団体職員を委員とした山形県高等学校サーベイコンテスト委員会は、6月4日に山形県総合運動公園（天童市）において、測量の日記念行事として、第22回山形県サーベイコンテストを開催した。

6月4～6日 「くらしと測量・地図」展を開催

関東地方測量部は、新宿駅西口広場イベントコーナー（新宿区）において、「くらしと測量・地図」展を開催した。「世界文化遺産・自然の営み富士山」をテーマに、関連する地図・空中写真・関連資料の展示・説明を行った。

6月5日～7日 国連地名専門家グループ第16回エクソニウムワーキンググループ会合に出席

オーストリア共和国のヘルマゴルにおいて開催された国連地名専門家グループの第16回エクソニウムワーキンググループ会合に中村国土基盤情報調整官が出席した。エクソニウム・エンドニウムの定義の見直しについての議論が行われた。

6月6日 第43回国土地理院報告会を開催

日経ホール（千代田区）において第43回国土地理院報告会を開催した。国土地理院からの報告のほか、東北大学大学院教授の松澤暢氏から特別講演をいただいた。本報告会には559名の参加があった。

6月9日 電子基準点データ提供ページを更新

電子基準点データ提供ページを、見やすく・使いやすく・迅速に利用できるよう更新した。

6月9日～12日 地理空間情報・統計情報の統合に関する国際ワークショップに出席

中華人民共和国の北京で行われた地理空間情報・統計情報の統合に関するワークショップに坂部国際課長が出席した。地理空間情報と統計情報の統合のため、グローバルな統計・地理空間フレームワークの実現を前進させることに関する優先課題が議論された。

6月10日 第264回地震調査委員会に出席

文部科学省において第264回地震調査委員会が開催され、今給黎地理地殻活動研究センター長が出席した。本会議では、「2014年5月の地震活動」について、関係行政機関及び大学等による調査観測結果やこれまでの研究成果の整理・分析が行われ、地震活動の現状について総合的な評価が行われた。

6月16日 国土地理院研究評価委員会を開催

関東地方測量部において、平成26年度第1回国土地理院研究評価委員会（委員長：大森博雄東京大学名誉教授）を開催した。委員会では、平成27年度からの実施を計画している特別研究新規1課題の事前評価が行われたほか、国土地理院研究開発基本計画事後評価（案）を提示し、平成21年度から平成25年度までの国土地理院の研究開発の取組に対し、意見をいただいた。

6月16日 内閣官房領土・主権対策企画調整室ウェブサイト に地理院の施策を掲載

内閣官房領土・主権対策企画調整室が運用しているウェブサイト に地理院の施策の紹介を掲載した。日本の領土を明示した地図の提供、島名の英語表記の統一等について日本語及び英語で掲載した。

6月16日～21日 国際測量者連盟（FIG）第25回国際会合等に出席

マレーシアのクアラルンプールで開催されたFIG第25回国際会合、国連地球規模の地理空間情報管理に関するアジア太平洋地域委員会（UN-GGIM-AP）理事会及び持続可能な開発のためのグローバルな測地基準座標系に関する作業部会に村上企画部長他2名が出席した。

6月19日 第19回中国地区測量技術講演会を開催

中国地方測量部長を委員長とする「測量の日」中国地区連絡協議会は、第19回中国地区測量技術講演会を開催した。菅雄三広島工業大学教授による講演のほか、測量に係わる民間企業及び広島県の若手技術者から、地理空間情報の利活用事例の紹介が行われた。

6月20日 国土地理院験潮場及び気象庁検潮所に設置されたGNSS観測点の測量成果等を公開

国土地理院験潮場18箇所、気象庁検潮所16箇所に設置したGNSS連続観測点について、測量標として利用できるよう測量成果と観測データ（GPSのみ）を公表した。

6月20日 第144回南極地域観測統合推進本部総会に参加

文部科学省において開催された第144回南極地域統合推進本部総会に坂部国際課長が参加した。第56次南極地域観測隊及び観測実施計画が決定された。

6月22日～26日 第6回アジア防災閣僚級会議に出席

タイ王国のバンコクで行われた第6回アジア防災閣僚級会議に宇根地理空間情報活用推進分析官が出席した。地理院からはアジア防災センターのブースにポスターを掲示した。

6月24日 「測量の日」記念講演会を開催

九州地方測量部は、(一社)福岡県測量設計コンサルタンツ協会との共催で、福岡県中小企業振興センター(福岡市)において、平成26年度「測量の日」記念講演会を開催した。約130名の地方公共団体、測量業等関係者が参加した。講演会では、「三角点の標高成果改定及び基準点体系について」「地理空間情報の活用について」「BLUE-TREND XAの紹介」「三次元計測データの活用について」の講演が行われたほか、地理院地図3Dパネルや3D模型の展示を行った。

6月24日 「外国人に分かりやすい地図表現検討会」第1回会議を開催

関東地方測量部において、「外国人に分かりやすい地図表現検討会」(座長:森田喬法政大学教授)第1回会議を開催した。本会議では、地名の英語表記方法、外国語版地図における地図記号が検討された。

6月30日 基準点体系分科会(V)報告を掲載

新たな基準点体系の在り方について検討を行い、測量や位置情報サービス等においても、位置情報を必要とする幅広い利用者に役立つスマートでコンパクトな基準点体系への移行について、今後10年間で取り組むべき施策と将来における新たな測地技術の導入について報告書にまとめ公開した。

7月1日 「測量の日」記念講演会を実施

「測量の日」四国地区推進協議会は、サン・イレブン高松(高松市)において、『四国の防災・減災への対応について』との演題で、「測量の日」記念講演会を実施した。

7月1日 日本全国の2万5千分1地形図(印刷図)を刊行

これまでに刊行されている2万5千分1地形図(印

刷図)に加えて、択捉島及び色丹島の全域47面分を刊行した。これにより、日本全国の2万5千分1地形図(印刷図)が刊行された。

7月1日～9月12日 「電子国土賞2014」を募集

電子国土基本図等の国土地理院のデータを活用するGISソフトウェアとGISコンテンツの中から独創性・有用性・発展性・操作性等に優れたものを表彰する『電子国土賞2014』の募集を実施した。

7月4日 無人航空機(UAV)による空中写真撮影を実施

7月4日に無人航空機(UAV)による西之島の空中写真撮影を行った。撮影した空中写真を解析して数値標高モデルを作成し、面積、最高標高、体積を測定した。面積は1.30km²、最高標高は約74m、体積は約2,220万m³となった。

7月8日 平成26年(2014年)7月8日18時05分頃の胆振地方中東部の地震に伴う地殻変動を検出

7月8日18時05分頃に発生した胆振地方中東部の地震(M5.6、深さ約3km、最大震度5弱)に伴う地殻変動を、電子基準点で検出した。

7月9日 第265回地震調査委員会に出席

文部科学省において第265回地震調査委員会が開催され、今給黎地理地殻活動研究センター長が出席した。本会議では、「2014年6月の地震活動」について、関係行政機関及び大学等による調査観測結果やこれまでの研究成果の整理・分析が行われ、地震活動の現状について総合的な評価が行われた。

7月11日 平成26年台風第8号及び梅雨前線等による災害があった長野県南木曾町の斜め写真を公開

大雨による甚大な災害があった長野県南木曾町において斜め写真を7月11日に撮影し、当日にホームページ上に公開した。また、7月15日に斜め写真による正射画像をホームページ上に公開した。

7月15日～8月31日 企画展「地図で見つけた 私が知らない私の街」を開催

地図と測量の科学館において、企画展「地図で見つけた 私が知らない私の街」を開催した。世界文化遺産に登録が決定され注目が高まっている開発や環境の変化などによる土地の変化を、昔と今の地図や写真で比べて紹介した。

7月16日～17日 平成26年測量事業関功労者及び

優良事業並びに優良技術者表彰式開催

測量事業の推進に功績のあった測量事業関係功労者及び平成 25 年度に完了した国土地理院発注の測量業務実施者のうち、特に優れた成績を収めた優良業務並びに優良技術者に対し、表彰式を行った。測量事業関係功労者 3 名、優良業務 6 社、優良技術者 4 名の院長表彰、優良業務 1 社の地方測量部長表彰を行った。

7 月 18 日 平成 26 年度国土地理院入札監視委員会総会及び第 1 回定例会議を開催

関東地方測量部において、平成 26 年度国土地理院入札監視委員会総会及び第 1 回定例会議を開催した。総会では、委員会の運営に関する説明及び委員長の選出等が行われ、委員長には谷津範之委員が選出された。定例会議では、国土地理院が発注した平成 25 年 10 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日までの測量業務、役務の提供等及び物品の製造等の中から委員会が抽出した事案についての審議が行われた。

7 月 22～23 日 「サイエンスフェスタ in 秋葉原」でパネル等を展示

秋葉原駅構内 TX 広場において開催された「サイエンスフェスタ in 秋葉原」(主催：首都圏新都市鉄道(株)・(財)茨城県科学技術振興財団)に参加し、「地図と測量の科学館」の紹介ビデオの上映や「日本列島陰影段彩余色立体図」のミニ版展示のほか、「西之島」立体地形模型の展示と「地理院地図 3D」の紹介等を行った。

7 月 23 日～29 日 平成 26 年(2014 年)7 月 23 日～29 日頃にかけて発生した伊豆大島近海の地震活動に伴う地殻変動を検出

平成 26 年(2014 年)7 月 23 日～29 日頃にかけて発生した伊豆大島近海の地震活動(最大 M3.7、深さ約 3km、最大震度 3)に伴う地殻変動を、電子基準点で検出した。

7 月 28 日 優良な防災アプリケーションを選定

平成 26 年 4 月に公募を行った防災アプリのうち、6 月末時点で動作可能な成果として提出のあったものを対象として、優良な防災アプリを選定するための学識者等による第 1 回審査委員会を開催し、防災アプリの有用性、操作性等の観点から、災害時に活用できる優れた 3 点を選定した。

7 月 31 日 全国の基盤地図情報をシームレスに接続して更新

別々のファイルで提供していた 2 種類の精度(都市計画区域内は縮尺 1/2,500、都市計画区域外は縮尺 1/25,000)の基盤地図情報を統合してシームレスにつなげるとともに、面的な更新、開通した高速道路など主要な施設の更新等を行い、提供を開始した。

8 月 1 日 ベクトルタイルの提供実験を開始

国土地理院の測量成果のベクトルタイル提供事業の検討にあたって、道路中心線ベクトルタイルの提供実験を開始した。ベクトルタイル提供における技術的・政策課題を把握するとともに、外部からの技術的な提案・議論を通じて適切な提供方法を研究開発することを目的とする。

8 月 1 日 第 77 回地名等の統一に関する連絡協議会に出席

海上保安庁海洋情報部において、第 77 回地名等の統一に関する連絡協議会が開催され、村上企画部長他 10 名が出席した。海洋情報部との協議の結果、離島について決定地名の追加及び変更が承認された。

8 月 4 日 地球地図による中華人民共和国の雲南省昭通市周辺の地図を公開

中華人民共和国南西部で発生した大規模な地震に伴い、大きな被害が発生している中華人民共和国雲南省昭通市周辺の地球地図を公開した。

8 月 4 日～8 日 地球規模の地理空間情報管理に関する国連専門家委員会(UNCE-GGIM)第 4 回会合等に出席

アメリカ合衆国のニューヨーク市国際連合本部において行われた、UNCE-GGIM 第 4 回会合及びサイドイベント等に、村上企画部長他 2 名が出席した。村上企画部長から、GM4SD 作業部会の取組が報告された。

8 月 5 日 地球地図国際運営委員会(ISCGM)第 21 回会合を開催

アメリカ合衆国のニューヨーク市国際連合本部において ISCGM 第 21 回会合を開催し、村上企画部長他 2 名が出席した。関係各国等から地球規模の地理空間情報の整備・提供について発表と議論が行われた。また、会合にあわせて ISCGM ホームページをリニューアル公開した。

8 月 6 日 第 49 回海岸昇降検知センター総会を開催

関東地方測量部において、第 49 回海岸昇降検知センター総会を開催した。本総会では、気象庁、海上保安庁海洋情報部、国土交通省港湾局、国土地理院

及び海岸昇降検知センター事務局から、平成25年度事業報告及び平成26年度実施計画の説明及び研究成果等の発表が行われた。

8月6日 「夏休み地球ウォッチング2014」を開催

沖縄支所は、8月6日に沖縄県豊見城市立中央公民館において、沖縄気象台、那覇海上保安部、沖縄総合事務局と合同で「夏休み地球ウォッチング2014」を開催した。沖縄支所としては、新たに定められた避難所記号の紹介、豊見城市の1万分1地形図の展示のほか、「地図記号クイズ」のコーナーを開設した。

8月6～7日 「子ども霞が関見学デー」に参加

「子ども霞が関見学デー」が、中央合同庁舎第3号館において実施され、「地図で学んで遊ぼう!」と題して、「都道府県分県パズル」のほか、「地図記号当てパネルクイズ」や「地図と測量の科学館のパネル展示」等を行った。

8月11日 第266回地震調査委員会に出席

文部科学省において第266回地震調査委員会が開催され、今給黎地理地殻活動研究センター長が出席した。本会議では、「2014年7月の地震活動」について、関係行政機関及び大学等による調査観測結果やこれまでの研究成果の整理・分析が行われ、地震活動の現状について総合的な評価が行われた。

8月14日 平成26年台風第12号・第11号の大雨等による災害があった高知県北川村の空中写真を公開

大雨による甚大な災害があった高知県北川村において空中写真を8月13日に撮影し、8月14日にホームページ上に公開した。

8月15日 地球地図によるインドのムンバイ東部の地図を公開

7月下旬から降り続いた豪雨による地滑りで、大きな被害が発生しているインドのムンバイ東部の地球地図を公開した。

8月15日 地球地図によるネパール連邦民主共和国のカトマンズ東部の地図を公開

7月下旬から降り続いた豪雨による地滑りで、大きな被害が発生しているネパール連邦民主共和国のカトマンズ東部の地球地図を公開した。

8月21日 平成26年(2014年)8月豪雨による被災地域の空中写真を公開

大雨による甚大な災害があった京都府福知山市、

兵庫県丹波市の地域における空中写真撮影を8月19日に、広島県広島市における空中写真を8月20日、21日、28日、30日、31日に撮影し、それぞれ撮影翌日にホームページ上に公開をした。

8月22日 第204回地震予知連絡会を開催

関東地方測量部において、第204回地震予知連絡会を開催した。本会議では、207回、208回の重点課題名が決定した。また、地殻活動モニタリングや地震・地殻変動予測能力の現状評価の検討が行われた。

8月25日～9月28日 防災アプリケーションを展示コーナー等で紹介

優良な防災アプリとして7月28日に選定したアプリを、8月31日に岐阜県総合防災訓練会場、8月25日～9月5日に国土交通省展示コーナー、8月26日～9月28日に地図と測量の科学館において、パネル展示等で紹介を行った。

9月2日 第15回測量行政懇談会を開催

関東地方測量部において、第15回測量行政懇談会(委員長:清水英範 東京大学大学院教授)を開催した。本懇談会では、『平成26年8月豪雨』における国土地理院の対応について、「国土地理院の最近の取り組みについて」、「測量技術者育成検討部会の設立について」等の報告及び議論が行われた。

9月9日 第267回地震調査委員会に出席

文部科学省において第267回地震調査委員会が開催され、今給黎地理地殻活動研究センター長が出席した。本会議では、「2014年8月の地震活動」について、関係行政機関及び大学等による調査観測結果やこれまでの研究成果の整理・分析が行われ、地震活動の現状について総合的な評価が行われた。

9月17日～11月3日 企画展「地図と測量の新時代～新たな技術が国土を拓く～」を開催

地図と測量の科学館において、企画展「地図と測量の新時代～新たな技術が国土を拓く～」を開催した。本企画展では、最先端の宇宙技術やセンサー技術などの地図と測量に関する新しい技術を紹介し、それらが生活にどのように関わっているかを紹介した。

9月25日 第41回日韓測地・地図協力会議を開催

国土地理院と大韓民国国土地理情報院は、国土地理院本院において、第41回日韓測地・地図協力会議を開催した。日本側からは村上参事官他9名、大韓民国側からは成潤模測地課長他4名が出席した。会

議では、両国における測地、地図作成及び地理空間情報にかかる事業・技術等についての意見交換等が行われた。

9月26日 電子基準点リアルタイムデータの配信機関を選定

平成27年度からの「電子基準点リアルタイムデータ配信機関」として、(公社)日本測量協会を選定した。

9月28日 御嶽山の噴火周辺地域の斜め写真を公開

9月27日に噴火した御嶽山の噴火周辺地域の斜め写真を9月28日、29日に撮影し、撮影日にホームページ上に公開した。

9月29日 GNSS連続観測によって得られる御嶽山周辺の地殻変動の状況を公開

9月27日に噴火した御嶽山周辺の、GNSS連続観測によって得られる御嶽山周辺の地殻変動の状況について、ホームページ上での情報提供を行った。

9月30日 航空機 SAR 画像による火口位置の推定結果を公開

御嶽山周辺の航空機 SAR 観測を9月29日に行い、航空機 SAR 画像から火口の位置を推定し、30日にホームページ上に公開した。

9月30日 国土地理院コンテンツ利用規約を制定

国土地理院におけるオープンデータへの対応として、政府標準利用規約(第1.0版)に基づき「国土地理院コンテンツ利用規約」を制定した。

10月3日 だいち2号干渉 SAR により御嶽山噴火に関する変動を検出

だいち2号による噴火前後のデータを比較することで、噴火に関する変動を検出した。

10月6日 優れた機能を持つ防災アプリケーションを選定

スマートフォン等で利用できる災害時の避難誘導等を行うための防災アプリケーションの機能を評価する第2回審査委員会を開催し、優れた機能を持つ6つの防災アプリを選定した。

10月9日 第268回地震調査委員会に出席

文部科学省において第268回地震調査委員会が開催され、今給黎地理地殻活動研究センター長が出席

した。本会議では、「2014年9月の地震活動」について、関係行政機関及び大学等による調査観測結果やこれまでの研究成果の整理・分析が行われ、地震活動の現状について総合的な評価が行われた。

10月9日～11日 第6回アジア・オセアニア GNSS 地域ワークショップ参加報告

タイ王国のプーケット市において行われた、第6回アジア・オセアニア GNSS 地域ワークショップに、古屋衛星測地課衛星情報係長他1名が出席した。GNSS チュートリアルセッションにおいて、国土地理院が開発したマルチ GNSS 対応のソフトウェア(GSILIB)のデモを行った。

10月14日～16日 UJNR 地震調査専門部会第10回合同部会を開催

ホテルモントレ仙台(宮城県仙台市)において、UJNR 地震調査専門部会第10回合同部会を開催した。日本側から42名、アメリカ合衆国側から21名が参加した。国土地理院からは村上参事官ほか12名が出席した。両国の研究者により48件の報告が行われた。

10月14日～17日 国連土地管理 WS へ参加

タイ王国のバンコク市において行われた、国連土地管理 WS に、坂部国際課長が出席した。途上国における土地管理事業の改善を途上国自身が実施するための支援ツール(CoFLAS I)についての改善点と今後の進め方について議論が行われた。

10月16日～17日 GNSS 測地網セミナーに参加

ミャンマー連邦共和国のヤンゴン市において行われた、GNSS 測地網セミナーに、宮川地震調査官、宮原物理測地課長が出席した。宮川地震調査官から GEONET について、構築の歴史からマルチ GNSS への対応の取組み、ネットワーク型 RTK 測位への活用まで紹介を行った。また、宮原物理測地課長から日本の測地基準系について、世界測地系への移行の経験から測量の精度を維持するセミ・ダイナミック補正の仕組みまで紹介を行った。

10月17日 「電子地形図20万」及び「数値地図(国土基本情報20万)」の提供開始

20万分1地勢図8面「東京」、「横須賀」、「千葉」、「大多喜」、「水戸」、「甲府」、「静岡」及び「御前崎」の範囲について、「電子地形図20万」及び「数値地図(国土基本情報20万)」の提供を新たに開始した。

10月22日～24日 国連地球規模の地理空間情報管理(UN-GGIM)に関する第3回ハイレベルフォーラムに出席

中華人民共和国の北京市において行われた、国連地球規模の地理空間情報管理(UN-GGIM)に関する第3回ハイレベルフォーラムに、宇根地理空間情報活用推進分析官他1名が出席した。持続可能な開発と地理空間情報に関連するセッションテーマにおいて、基調講演やパネルディスカッションによる議論が行われた。

10月23日 第130回火山噴火予知連絡会に出席

気象庁において、第130回火山噴火予知連絡会が開催され、飛田地理地殻活動総括研究官が出席した。参加した各機関から全国の火山活動に関する最新の観測結果の報告、総合的な検討が行われ、特に御嶽山、口永良部島、霧島山、桜島の火山活動について重点的に検討が行われた。国土地理院からは、GNSS、SAR、UAVによる観測・解析結果等を報告した。

10月27日 第32回IVS評議会を開催

国土地理院で開催された第32回IVS評議会に栗原基線解析係長(宇宙測地課)が出席した。日本での評議会開催は、2002年(つくば)、2006年(幕張)に続いて3回目であった。

10月28日 石岡VLBI観測施設で試験観測を開始

茨城県畜産センター(石岡市)の敷地内に建設が進められてきた石岡VLBI観測施設は、これまでVLBI観測を実施してきたつくばVLBI観測局(つくば市)の後継となる次世代型VLBIアンテナとして試験観測を開始した。10月28日には、地元自治体や国内外研究機関の関係者を招いて観測開始式が行われた。

10月28日～11月30日 防災アプリケーションを展示コーナー等で紹介

優れた機能を持つ防災アプリとして10月6日に選定したアプリを、11月8日に大規模津波防災総合訓練会場(和歌山県和歌山市)、10月29日～11月11日に国土交通省展示コーナー、10月28日～11月30日に地図と測量の科学館において、パネル展示等で紹介を行った。

10月31日 地球地図によるスリランカ民主社会主義共和国中部の地図を公開

10月29日に発生した地滑りで、大きな被害が発生しているスリランカ民主社会主義共和国中部の地球地図を公開した。

10月31日 場所情報コードAPIの提供を開始

場所情報コード閲覧システムで公開している情報を、機械判読可能な形式で取得できるAPI

(Application Programming Interface)の提供を開始した。

11月1日 六甲・淡路島、警固、三峠・京都西山断層帯の都市圏活断層図を公開

空中写真の判読等によって活断層を抽出し、詳細な位置や断層のずれの方向などを電子地形図25000上にまとめた都市圏活断層図、六甲・淡路島断層帯とその周辺「洲本」「由良」「鳴門海峡」、警固断層帯とその周辺「福岡(改訂版)」「甘木」「脊振山」、三峠・京都西山断層帯とその周辺「園部」の7面を公開した。

11月5日～6日 平成26年度国土交通省国土技術研究会に参加

国土交通省本省において、平成26年度国土交通省国土技術研究会が開催された。国土地理院から自由課題(イノベーション部門)1課題、自由課題(一般部門:安全安心)2課題、ポスターセッション2課題の発表を行った。

11月5日～30日 「第15回いばらき児童生徒地図作品展」を開催

茨城大学図書館において、「第15回いばらき児童生徒地図作品展」を開催した。本作品展は、茨城県内の小・中学生を対象として、身のまわりの環境や地域の姿を様々な視点から調べ、地図にまとめることで環境や地域、地図に対する関心を深めることを目的として開催した。また、全応募作品126点の中から優秀な作品46点を選出して展示するとともに、最優秀賞及び優秀賞については、11月15日に表彰式を行った。

11月9日 防災アプリを使った避難誘導実証実験を和歌山県海南市で実施

優れた機能を持つ防災アプリとして10月6日に選定したアプリを用いた避難誘導実証実験を、和歌山県海南市の防災訓練において実施した。実証実験を通じて、「防災地図共用データベース(仮称)」の望ましいあり方に関する課題の抽出や防災アプリの機能検証等を行った。

11月9日～13日 第3回国際VLBI技術ワークショップに出席

オランダ王国のフローニンゲン市において行われた、第3回国際VLBI技術ワークショップに福崎測地部専門調査官が出席した。各国のVLBIに関する技術開発の報告が行われた。

11月9日～14日 衛星測位システムに関する国際

委員会第 9 回総会(ICG-9)に出席

チェコ共和国のプラハ市において行われた、衛星測位システムに関する国際委員会第 9 回総会(ICG-9)に、小白井測地観測センター長が出席した。各国の GNSS プロバイダーからの最新状況の報告などが行われた。

11 月 10 日 第 145 回南極地域観測統合推進本部総会に出席

第 145 回南極地域観測統合推進本部総会が開催され、齊藤測地部長他 1 名が出席した。本総会では、第 56 次南極地域観測隊の行動実施計画等についての審議が行われた。

11 月 10 日～12 日 UN-GGIM-AP 第 3 回総会に出席

インドネシア共和国のバリ市において行われた、UN-GGIM-AP 第 3 回総会に、村上企画部長他 2 名が出席した。災害管理・人材育成に関する各国動向等の報告、国連・各 WG からの活動報告などが行われた。

11 月 11 日 「電子国土賞 2014」受賞作品を決定

国土地理院が提供・配信する電子国土基本図等を利用した GIS ソフトウェアと GIS コンテンツの中から優れたものを表彰する「電子国土賞 2014」等の受賞作品を決定した。

11 月 12 日 第 269 回地震調査委員会に出席

文部科学省において第 269 回地震調査委員会が開催され、今給黎地理地殻活動研究センター長が出席した。本会議では、「2014 年 10 月の地震活動」について、関係行政機関及び大学等による調査観測結果やこれまでの研究成果の整理・分析が行われ、地震活動の現状について総合的な評価が行われた。

11 月 13 日～15 日 G 空間 EXPO2014 が開催

日本科学未来館において、G 空間 EXPO2014 が開催された。本 EXPO は、G 空間情報が広く活用される社会「G 空間社会」(地理空間情報高度活用社会)の裾野を広げ、技術やサービスの創出や高度化を目的として、G 空間情報の最先端の技術やサービスを集結し、展示、講演・シンポジウム、体験イベント等を通じ、広く一般の方々に未来をつくる日本の技術やサービスを紹介する場とするとともに、新たな技術やサービスの創出や既存のそれらの高度化・発展に関する民間事業者等の提案や創意工夫を掘り起こす場として開催された。3 日間の入場者数は約 20,000 人であった。国土地理院は、Geo アクティブ

ティフェスタや電子国土賞 2014 表彰式及び受賞作品紹介、国土地理院施策展示等を開催した。

11 月 14 日 測量計算 API の提供を開始

測量計算サイトで提供している計算機能について、機械判読可能な形式で取得できる API の提供を開始した。

11 月 17 日～18 日 アジア工科大学電子基準点 WS に出席

タイ王国のバンコク市において行われた、アジア工科大学電子基準点 WS に、今給黎地理地殻活動研究センター長が出席した。今給黎地理地殻活動研究センター長ほかによる GNSS 連続観測網に関する講演を行い、それに関連してタイ測量局側からの質問を受けた議論が行われた。

11 月 18 日 細島駿潮場が「土木学会選奨土木遺産」に認定

細島駿潮場(宮崎県日向市)が、(公社)土木学会より「明治期に設置された現存する日本最古かつ現役の駿潮場であり、世紀を超えて地道な潮位観測に貢献している貴重な施設」と高く評価され、11 月 18 日(土木の日)、「平成 26 年度土木学会選奨土木遺産」の認定を受けた。

11 月 22 日 平成 26 年(2014 年)11 月 22 日 22 時 08 分頃の長野県北部の地震に伴う地殻変動を検出

11 月 22 日 22 時 08 分頃に発生した長野県北部の地震(M6.7、深さ 5km、最大震度 6 弱)に伴う地殻変動を、電子基準点の解析結果及びだいち 2 号の SAR 干渉画像の分析から検出した。

11 月 23 日 第 270 回地震調査委員会(臨時会)に出席

文部科学省において第 270 回地震調査委員会(臨時会)が開催され、今給黎地理地殻活動研究センター長が出席した。本会議では、「2014 年 11 月 22 日長野県北部の地震」について、関係行政機関及び大学等による調査観測結果等で、総合的に評価が行われた。

11 月 24 日 地震による災害があった長野県北部の空中写真を公開

長野県北部を震源とする地震による甚大な災害があった長野県小谷村、白馬村、大町市において空中写真を 11 月 24 日に撮影し、ホームページ上に公開した。

11月24日～28日 ISO/TC 211 第39回総会及び関係会合に出席

中華人民共和国の深セン市において行われた、ISO/TC 211 第39回総会及び関係会合に、藤村情報普及課長が出席した。ワークショップにおいて藤村情報普及課長により、ウェブ地図ではISO/TC 211で議論されていないタイル方式（地理院地図方式）を用いて成功を取めていることについて発表が行われたほか、空間スキーマの改定に向けた議論などが行われた。

11月27日 関西G空間フォーラム2014を開催

近畿地方測量部は、葉業年金会館（大阪市）において、関西地域における産学官の連携により関西G空間フォーラム2014を開催した。本フォーラムは、関西における地理空間情報についての現状を認識するとともに、産学官の間で共有化を図り将来を展望することを目的としており、合同シンポジウムの中で第33回測量技術講演会を実施し、国土地理院から村上参事官による特別講演と伊藤情報普及課長補佐、徳永地理空間情報管理官の講演が行われた。

11月28日 第205回地震予知連絡会を開催

関東地方測量部において、第205回地震予知連絡会を開催した。本会議では、全国の地震活動、日本周辺における浅部超低周波地震活動、日本列島のひずみ変化、地震関連、プレート境界の固着状態とその変化について報告が行われた。また、重点検討課題「物理モデルに基づいた地震発生予測研究 その2」に関する報告・議論などが行われた。

12月9日 第271回地震調査委員会に出席

文部科学省において第271回地震調査委員会が開催され、今給黎地理地殻活動研究センター長が出席した。本会議では、「2014年11月の地震活動」について、関係行政機関及び大学等による調査観測結果やこれまでの研究成果の整理・分析が行われ、地震活動の現状について総合的な評価が行われた。

12月9日～12日 国際写真測量・リモートセンシング学会第8部会2014年中間シンポジウムに出席

インドのハイデラバード市において行われた国際写真測量・リモートセンシング学会第8部会2014年中間シンポジウムに、中埜地理情報解析研究室研究官が出席した。12セッションに分かれて発表がなされ、中埜研究官は「災害とリスクの軽減」セッションにおいて発表を行い、口頭発表部門で、2nd Best paper presentation in Oral category(第2位:準優秀賞)を受賞した。

12月10日 火山土地条件図「新潟焼山」を公開

北陸地方を代表する活火山である新潟焼山を対象に新潟県糸魚川市及び妙高市が含まれる範囲約240km²を調査し、火山土地条件図「新潟焼山」を公開した。

12月15日～19日 米国地球物理学連連合2014秋季大会に出席

アメリカ合衆国のサンフランシスコ市において行われた米国地球物理学連連合(AGU)2014秋季大会に、宗包宇宙測地研究室主任研究官他1名が出席した。

12月17日 平成26年度国土地理院入札監視委員会第2回定例会議を開催

関東地方測量部において、平成26年度国土地理院入札監視委員会第2回定例会議を開催した。国土地理院が発注した平成26年4月1日から平成26年9月30日までの測量業務、役務の提供等及び物品の製造等の中から委員会が抽出した事案について審議が行われた。

12月18日 触地図作成に関する情報提供サイトを公開

3Dプリンタによる触地図作成に関する技術開発の情報の提供サイトを公開した。

12月19日 西之島周辺の空中写真等を公開

12月4日と10日に西之島周辺の空中写真撮影を実施し、空中写真と地形判読図、立体図をホームページで公開した。

12月19日 相馬駿潮場を再建し試験観測を開始

平成23年(2011)東北地方太平洋沖地震に伴う津波によって流失した相馬駿潮場及び電子基準点を、旧駿潮場から南西約100m地点に再建し、試験観測を開始した。